

才

三年 筆順 一才
フン オン サイ

成り立ち



くさや木が、めを出し、ねをわずかにのばしはじめたかたちをあらわした字。そこには見えないけれども、やがてせいちようしてりっぱなものになるものだから、「そこからは見えない」「あたまのはたらき」をあらわしました。

「あたまのはたらき」をあらわした字ですが、「大きなはたらきをする力をひめている」ものだから、「大きなはたらきをする力をひめたもの」を「才」という字であらわします。

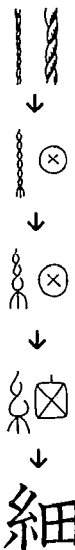
「材」は、りっぱなえをつくるのにつかう木。

「財」は、りっぱなしごとをするのにつかうお金。

細

三年 筆順 糸細細
フン オン サイ

成り立ち



赤ちやんの頭のてっぺんは、ほねにわずかなすきまがあつて、びくびくとみやくうっています。これを「函」といいます。この「函」と、糸との形をあらわした「糸」とを組み合わせて作った字で、「糸のように」「ほそい」こと、「函のように」「こまかい」ことをあらわした字です〔参照「思(2年150)」〕。

「函」の音はシンであるが、「思」ではシ、「細」ではサイと変化している。si・ti・kiの発音はシ、チ、キと、サイ、タイ、カイとあるのは英語とすべて同じである。紫、紫、残滓、宰相、治、胎、紀、改、鬼、塊

▽あの人は才能がありながら、体が弱いために、せっかくの才能がはつきでできないでいます。才子多病とはよくいったものですね。

熟語例

▽才能(ものごとがよくわかつてそれをやりとげることができる力。今は「頭のはたらきがい」ことのいみにおおくつかわれています。)

▽才子(子は人のいみ。才能のある人、のことです。今は、ただ「頭のよい人」といういみにつかわれます。)

▽文才(文を書く才能)

▽商才(商いをする才能)

▽秀才(秀は目立って人よりすぐれていること。才能が人より目立ってすぐれている人のことをいいます。)

▽英才(英は秀と同じいみ。秀才ということばと同じいみにつかわれています。)

▽天才(天授「天から授かった」の秀才といういみのことば。生まれつきの秀才)

▽才色兼備(才能容色「顔かたち」とともに備わっていること)で、才能もすぐれ、顔かたちもよいことです。)

使い方

▽外では、雨がふっています。窓から外の雨を見ると、絹糸のように細い雨が、あとからあとから、ふって来て、絶え間がありません。

▽おかあさんは、中国製のししゅうをしたハンカチを大切にしています。見ると、とても細かいししゅうがしてあって、よくこんなに細かいしごとができるなあ、と感心します。

熟語例

▽細流(細い流れ。はばのせまい川の流れのことです。)

「山をどんどん登って行くと、細流に出合った」などというふうにつかいます。)

▽細雨(細かい雨。霧雨のことです。)

▽細心(心を細かく行きとどかせること。「細心の注意をはらって、研究する」などというふうにつかいます。)

▽細大(細かいことから大きなことまで。「細大もらさず報告する」などというふうにつかいます。)

▽微細(非常に細かいこと。「微細な点まで調べつくす」などというふうにつかいます。)